



1995.9.5 No. 50



現地訪問報告会のお知らせ

1995年度、現地訪問報告会を下記日程で開催します。
会員でない方でも、バングラデシュや私たちの活動に興味をお持ちの方が身近におられましたら、ぜひお誘いください。
今年は、母子保健センターも開設され、医療器具もすべて無事に届きました。現地で撮影したビデオや写真の公開、ユニークな訪問メンバーによる活動や今後の課題について等をご報告します。

日時：10月8日（日） 午後1時30分から

場所：早良市民センター 視聴覚室

TEL 831-2321 （地下鉄藤崎駅横）

8 / 20 現地訪問報告会が開かれました。

渡辺通教会・40名が参加しました。

ハンカチカットに
し村で変身



丸木先生

『内診を村の女性に理解してもらうのに時間がかりまして……』

聲が短かいゆえに男性にまちがえられ、内診を拒否された丸木先生。エ IPP と服をまくり胸を見せて納得させたのです。

これ女医魂？ いいえ丸木魂。?? 丸が日本魂……??

医療班の報告を
す。丸木先生から……



森昌子さん



去年は薬も包帯もなくてハンカチを包帯がわりにしました。今回は多くの皆様の善意のおかげで薬も包帯もたくさんあって助かりました。大木さんがヒレソジドクターとの話し合いの時言われたことですが『支援を形にすれば物ですが、その物は日本に

いる多くの方々の心が形になったものです。』と。私も今回の訪問でそのことを強く感じました。ありがとうございました。

村里やよいさん

村でもやさしいまなざしと絶対叱りがなかった村里さん
『村の人達に会えて本当に幸せでした。子供達の歯がとてきれいでしょ』と報告。明日もいっしょに……カ村里さんの思い出したDにせよ。

高橋



カおりさん

『訪問中、すごい数の受診希望者でした。当然、受診できない人もあり。用を外に出ると何人もの人に囲まれて……。診てもらえなかった人はどんな容態の人だったのかと……。留、やさしい。彼女は診てもらえなかった村の人々を今も思いやっています。』

丸木先生と息、ヒツリ。

女性達の診療にいらした安藤さん。村に『しきり導かん』と日本のみんなからよはれて。掃除、洗たくから診療室のドアの開け閉め、患者さんの整列、子供のあしらい、はにまた。消毒薬にたかるハエの追い払いまで、一喝できる働き者のお婆さんがいました。しかし、そのお婆さんを上手にしきっていたのが安藤さん(にぶん)だったのです。その安藤さん『今回の訪問でよき友達を得ました。貴重な経験をたくさんしました。とても意義でした。』と。

安藤恵子さん

今後村の人達の健康状態を継続して、みたり。村の人達に自分の健康状態を知っていただくためにも、『健康手帳』をつくってはどうか。日本人達の手づから次回 持ってゆけたら役立っと思ひます。



宇治松枝

9 5 現地訪問今後の課題＝保健医療分野

今年の現地訪問団メンバーは総勢14名。そのうち医療班は7名—医師2名、看護婦5名—という陣容。今年行った主な活動は……

- 母子保健センターの開院式 ○診療活動 ○乳幼児検診 ○母親教室
- 滞在中に2例の出産 ○医療機器の到着・搬入
- 今後の母子保健センターの運営についての話し合い……などでした。
(くわしくは、近く完成予定の「報告書」をぜひご覧ください。)

これらの活動を通して、今後の課題を整理してみると——

①医療機器の活用と、母子保健センターの今後

母子保健センターが開院し、ノルジャマン医師と二人の看護婦が常勤となり、医療器械もかなり整いました。問題は、今後これらの器械が十分に活用されるか否かで、器械の管理・使用のほかに、消毒や滅菌のやり方など、母子保健センターとしての基本的な問題も多く残されています。そのほか継続的な薬の補給が必要で、国内で持続的に調達できる道を考えねばなりません。

またこれらの問題を含めた、母子保健センターの運営も今後の大きな課題です。もちろん母子保健を中心とした治療機能も大切ですが、それだけでなく、保健・衛生意識の向上・病気の予防に関する教育活動が大きな比重を占めます。このことはノルジャマン医師やビレッジドクターたちも十分認識しており、国内研修などでも地域保健やコミュニティ・ヘルスケアに重点をおいて研修を行っています。むしろ日本の私たちの側が、日本の進んだ医療の中に埋もれており、機械や設備のない村の状況での地域保健の進め方についてもっと学ばなければならない気がします。

②日本人・バングラデシュ人のチームワークと計画性

宇治さんと村里さんの行った乳幼児検診なども日本人とバングラデシュ人がチームを組んで行いました。今後は、これを積み重ね、またセンタースタッフとビレッジドクターが自主的に、検診や健康教育活動を続けていく必要があります。日本側の役割も、彼らの活動を側面的に支えるものになっていく必要があると考えています。

「母子保健センター」や「サテライトセンター」（村の中でヘルスワーカーが働く所）のスタッフの確保・増員や、プロジェクトの拡大なども今後出てくるでしょう。これらに対しては特に、財政的にも大きなものとなってきたので、計画的に物事を進める必要があります。

(二ノ坂 保喜)

竹とんぼオヤジのその後

先号にも書かせていただきましたが、バングラの話を知ろうともしない父が、今回の訪問を前に25本の竹とんぼを作り、持たせてくれました。

帰国すると母が「あなたの年の数だけもたせらっしゃったっちゃけんね。」と教えてくれました。父に礼を言うと「25で嫁に行くごと作ったった。」と相変わらずです。

そんな父の側に、わかるように写真をおいておいたら、後でそっと虫眼鏡を使って見ていました。親子で素直ではありません。

先日、父がほそっと「竹とんぼは飛びよるかね。折るしよれてしもたかね。10本位は残っとろうね。」と言いました。バングラの話をしようとしなかった父です。バングラの青い空に飛び上がる竹とんぼを、親子で思い描きました。

もりまさこ

城南ロータリークラブで報告会

8月23日(水) ホテルニューオータニで、城南ロータリークラブの定例会が開かれ、二ノ坂さんが卓話として「バングラデシュでの海外医療協力」と題して報告を行いました。

ロータリークラブは数年前からカラムディ村への協力を続けています。今年もスライドを見ながらの報告に、多くの方が関心を示してくださいました。

NGO福岡ネットワーク

次回定例会は 9月30日(土) 午後2時～5時

場所は今回初めて、アクロス福岡3F

こくさいひろば交流室B です。

いろんな団体の方が参加して、活気ある会になってきています。どうぞ、お気軽にご参加下さい。

おかえりなさい！

13人の訪問団の皆様、おかえりなさい。

日本も記録的な猛暑の中、お疲れさまでした。8月20日の渡辺通教会での帰国報告会に出席して、皆様のお話しを聞かせてもらいました。バングラデシュの訪問は初めての方が多く、あふれる思いを伝えるのに、時間も忘れて熱心に話して下さいました。また、ビデオも私には初めて見るカラムディ村でしたので、興味深いものでした。「バングラデシュと手をつなぐ会」も年を重ねて、着実に実績を上げてきていることを感じました。

村の人々が心から訪問団を歓迎していることはうれしいことです。「母子保健センター」を作るという発想もすばらしいもので、それが実現したということは、村の人々を含めての努力の結晶です。

どこの国も色々問題を抱えていると思います。先進国といわれる国ほど、価値観の違いから問題は根深く、解決のつかないことが多いように思われます。私たちの会とバングラデシュがいつまでも手をつなぐ友達であることが大切なことだと思いました。

(友納 つる子)



8月20日、渡辺通教会でバングラデシュ（湿度95%）から帰国した13人のメンバーの報告会がありました。

実に多岐、多様にわたる13人のそれぞれの見たこと、聞いたこと、感じたこと、そして体験したこと、また写真、ビデオを通して、なかなか量感がありました。現地に行く、このことだけでも実感としてとらえられる、私はまだまだこの実感は味わっていないのではないかと！！残念です。

いみじくも、中学生が言った「世界が見えた」—百聞は一見にしかず—ですが、これから順次開かれる報告会は、百聞は一見に値するものだと思いますので、ミロンを通じて皆様にお知らせください。

13人のメンバーの皆さん、ご苦労さまでした。シュンドル（きれいな、美しい）・バングラデシュ

(曾根 和子)

バングラデシュと手をつなぐ

チャリティコンサート '95

～ハーブの吟遊詩人 池田千鶴子さんをお招きして～

チャリティコンサートは、現地との協力活動、毎年の定期的な現地訪問と
ならんで、日本の皆さまに現地の様子を伝え、共に考えるための機会として
一昨年から開催していきました。今年も素敵な音楽を聞きながらバングラデ
シュの子供たちの生活に思いを馳せる、コンサートを企画しました。

今年は、世界各地でエイズやガン末期患者さんをはじめとする病いの人々
や、障害者の方々と音楽を通しての交流を続けている、＜ハーブの吟遊詩
人＞池田千鶴子さんに演奏をお願いすることになりました。

また、母子保健センターで働いているノルジャマン医師の来日も予定し、
「現地からの報告」も「現地訪問のビデオ」と共に紹介する予定です。

会員の皆様も、また関心のある方々も、どうぞお誘いあわせの上、ご参加
下さい。



日時 1995年11月25日(土) 午後2:30～5:00

場所 末永文化センターホール
福岡市城南区七隈1-11-50
TEL 092-821-3338

入場料 一般 2000円 高校生以下 1000円

出演 池田 千鶴子さん (ハーブ演奏)

現地からの報告 ノルジャマン医師

(バングラデシュ・カラムディ村母子保健センター医師)

主催 バングラデシュと手をつなぐ会

共催 NGO福岡ネットワーク/九州ライフネットワーク (QLNET)

後援 福岡市・福岡市教育委員会 NHK九州メディス 朝日新聞社

毎日新聞社 読売新聞社 西日本新聞社



福岡シティ銀行、姪浜支店より
〒57, 770 手をつなぐ会へ！！

私たち14名の会員が、バンングラデシュへ出発した翌日の7月20日、西区姪浜4丁目16-28、福岡シティ銀行姪浜支店で行員の皆様が、手をつなぐ会の為に不用品バザーを開いて下さいました。その収益金全額を、お得意様係の上瀬（こうたき）和恵様を通してご寄付いただきました。“バンングラデシュと手をつなぐ会”の白地にグリーンが鮮やかな幕をはり、バザーをしている風景まで写真に撮って頂きました。不用品の中には、私がバンングラデシュの空の下でなければ、走って買いに行きたかった程、ステキな商品もありました。特に気に入ったのが、2~30cm位の招きネコです。今にも大判小判がザクザクという様な風体に惚れました。何と、この愛しいネコちゃんに〒10,000も出してくれた奇特な方がいらっしゃったとの事。やっぱり幸運の\$\$招きネコ\$\$だった様です。今後は、バンングラデシュ現地訪問の写真展も計画していただいておりますので、その時は皆さん、是非見に来て下さい！姪浜支店の満見（みつみ）支店長、上瀬様、他銀行員の皆様本当にありがとうございました。これからも、手をつなぐ会の応援を宜しくお願い致します。



(安藤)

福岡シティ銀行姪の浜支店では、
9月11日（月）から22日（土）まで
バンングラデシュの写真展 を行います。
皆さん、どうぞお誘いあわせの上、おでかけ下さい。

お知らせ

ありがとう。旅費カンパ・医療機器

- たくさんの旅費カンパありがとうございました。
- 医療機器も無事到着し、診療に役立てることができました。

運営委員会

9月10日(日)

午後1:30～ 大木さん宅

10月作業日

月11日(水)午後1:30～

月12日(木)午後1:30～21:00

作業日、時間を延長しました。勤めの人も参加できるようにとの配慮からです。

5時以後、意見交換や勉強会にも当てます。

自由参加ですから、どなたでもお気軽にご参加ください。

なお、「オリッコ」を購入しました。四つ折りまで可能です。

Bangladesh と手をつなぐ会

〒814

福岡市早良区西新5-5-13

FAX・TEL092(822)5795

代表 大木松子

送金先 郵便振替

01720-2-10442

Bangladesh と手をつなぐ会

